

「経済信州発」に弊社取り組みが紹介されました

信濃毎日新聞

9

経済

2023年(令和5年)2月22日 水曜日

経済信州発

就業規則改定「働く母親の力に」

薬草茶製造の黒姫和漢薬研究所(上水内郡信濃町)で取締役総務部長を務める小林博子さん(57)は元保育士。育児との両立のため、さまざまな職場でのパート勤務を経て、23年前に同社に入社した。従業員の約半数が女性の職場で、誰もが安心して働ける環境づくりに自らの経験を生かしている。

黒姫和漢薬研究所(上水内郡信濃町)

取締役総務部長

小林 博子さん(57)



で退職。子育て中でも働ける不動産会社などでパートの事務員をしながら、2児の子育てに奮闘した。

長男が小学校に上がる頃、地元の実業会社に勤めていた実母(89)から「女性も正社員として働いた方がいい」と背中を押さ

#マイ・ストーリー

れた。女性の正規雇用が少なかった時代に、正社員として生き生きと働いていた母の姿を思い出し、再就職を決意。簿記3級を取得し、新聞の折り込みチラシで正社員を募集していた黒姫和漢薬研究所の採用試験を受けた。34歳だった。

入社直後から経理担当として、決算資料の作成を任せられた。手形や入金書類などを適切に処理し、6月の株主総会までにやり切ったことが自信と達成感になった。「新しいことに挑戦するのは、いくつになっても楽しい」と仕事にのめり込んだ。

社内には細かく目を配った。「会社の一人一人が安心して業務に専念できるよう、縁の下のサポーターに徹する」のが信条。仕事ぶりが評価され、2013年に取締役に抜擢された。

18年、就業規則を見直し、午前8時10分だった始業時間を同8時40分に遅らせた。子どもを保育園や学校に送り出して出社する慌たしさを和らげられるようにとの思いからだ。保育園の時間外保育料に充てられる手当の支給も始めた。

能力や経験があっても、子育てのために就労や正社員になることをためらう女性が多いと感じる。「働くお母さんの力になりたい」と力を込めた。

ど
旅
物
新
は、
新
普
の
最
旅
新
工
回
復
基
調
だ
が
、
物
価
高
で
家
計
「
たい
と
思
っ
て
い
る
」
が
4
2
・
7
設
問
で
は
「
物
価
高
が
収
ま
っ
」
同
研
究
所
は
「
新
型
コ
ロ
ナ
禍
」
オ
ン
ラ
イ
ン
で
開
く
。
ニ
ュ
ー
ジ